

美しい森林づくり

ボランティアによる再生活動の取組 ～海岸防災林の復旧に向けて～

仙台森林管理署

東日本大震災に伴う津波により、仙台湾沿岸の40キロメートルにおよぶ海岸防災林が甚大な被害を受けました。

このため、国有林はもちろんのこと海岸防災林の約6割を占める民有林についても、宮城県知事の要請を受けて復旧事業に取り組んでいます。

大震災から7年が経過し、復旧事業が着実に進んでいる中で、ボランティアや子供達による復旧に向けた活動も続いており、その一端を紹介します。



25年度植樹後（右）と29年度の状況

①「社会貢献の森」活動

社会貢献活動の一環として海岸防災林の復旧に寄与したい団体・企業と協定を結び、植樹や保育を実施しています。

最初の協定締結は平成24年度で仙台市の谷地中国有林約2haに14団体、25年度は名取市の台林国有林約9haに11団体、そして28年度には仙台市の田ノ神国有林約3haに7団体が活動しています。

団体ごとに、大苗を植えたり根元に施肥を行うなど工夫を凝らした取り組みにより、防風柵の高さを越えるまで成長しています。

なお、昨年10月開催の「東北・みやぎ復興マラソン2017」では、成長している松林沿いをランナー達が駆け抜けて行きました。



②高校生による体験活動

平成27年度から、柴田農林高校森林環境学科の生徒による海岸防災林復旧事業の見学が毎年度行われています。

今年度は、10月に二年生14名が、海岸防災林復旧事業の見学と植樹体験を行いました。

署の担当者から、現在の復興状況や植樹方法について説明を受けたあと、まだ実習で植え付けを経験していない生徒達は、慣れない手つきながらも丁寧に植えていました。

なお、7月には当署において同高からのインターンを初めて受け入れたところであり、今後も人材の育成に寄与していく考えです。



③小学生の復興学習

昨年12月に山元町立山下第一小学校の六年生11名が東日本大震災からの復興を学ぶ場として、海岸防災林の復旧現場を見学するとともに、当署職員とともに記念植樹を行いました。

後日、児童全員から手紙が届き「植えるのが大変だった」「防災林の役割がよくわかった」などの感想が寄せられたところであり、このような子供達の思いにしっかりと応えることが出来るよう、海岸防災林の復旧に今後も取り組んで参ります。

